

## 理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名： 岩澤 住武 所属： 横須賀市立不入斗中学校

課題名： ビオトープを通じた、地域などとの連携した環境教育の試み

### 1. 課題の主旨

これからの学校教育では、学校という枠組みだけでなく地域や地域にある諸施設などとの連携を通して多面的な学びを生徒に体験させていく必要がある。本研究では中学校の校内に地域や保護者、博物館などの協力を得ながら、自然環境を復元したビオトープを設置し、中学校の生徒がそこに住む動物や植物、水質などの調査や維持活動を行うことにより、自分を取り巻く自然環境へのより深い理解、興味関心を高めることなどを目的としている。また、ビオトープが自然環境保全などの発信地となるような事もねらいとしている。

### 2. 活動状況

本校のビオトープは平成16年の3月に造成を開始し4月に完成した。その後は、生徒の有志や「不入斗中学校おやじの会」の方々の力を借りながら、維持、整備を行っていた。

その後も「不入斗中学校おやじの会」の方々の手によって柵や看板などを設置し、10月29日に「不入斗はらっぱ（ビオトープの愛称）」として、協力をいただいた地域のボランティアグループの方々（水辺公園友の会、1000年の森をつくる会）や博物館の先生、PTAなどを招いて開園式を行った。これにあわせて、ビオトープを維持する「不入斗はらっぱ守り隊（校長先生の命名）」という生徒のボランティア組織を結成した。（開園式の様子は神奈川新聞横須賀版に掲載されました）

以下、「不入斗はらっぱ守り隊」の活動を中心に紹介をします。

第1回 「冬越しのヤゴの観察」 1月21日

田んぼの土を取り、その中で冬越しをしているヤゴを観察しました。この日は珍しく横須賀に雪が積もった日でしたが、そんな中でヤゴのまま冬越しをしていることに驚いていました。

第2回 「横須賀市水辺公園見学」 2月11日

ビオトープの施設見学ということで、横須賀市の野比にある「水辺公園」を見学しました。水辺公園友の会のボランティアの方に案内していただきました。

第3回 「不入斗はらっぱ整備作業」 2月25日

杭の防水のための塗装を行いました。さらに、カエルの卵塊を池に放流しました。

第4回 「不入斗はらっぱ整備作業」 3月11日

小川を渡る橋を角材を組み合わせてつくりました。

第5回 「田んぼ整備作業」 5月20日

田んぼに自然にはえてきたガマを取り除いて、田植えをできるようにしました。ガマの繁殖力はとても強く、小川のガマも間引きを必要とするような状態となっています。

第6回 「田植え」 6月17日

小田原の農家の方から譲って頂いた「キヌヒカリ」という品種の稲の苗を植えました。田んぼは深い水管理しており、途中で水を抜くようなことはありません。そのため、雑草の出現がほとんどなく（ただしガマは別）田植えのあとの世話は鳥よけの網をはる位です。

第7回 「不入斗はらっぱ整備作業」 7月23日

伸びすぎた野草を刈りました。

夏休み期間中 「不入斗はらっぱHP制作作業」

夏休み期間中に何度か集まり、不入斗はらっぱのHPを制作しました。そのHPは横須賀市のスクールールデジタルコンテストに出品し、最優秀賞を受賞しました。

第8回 「不入斗はらっぱ整備作業」 9月3日

伸びすぎた野草を刈り、さらに田んぼに鳥よけのネットを張りました。

第9回 「稲刈り」 10月1日

稲の刈り取りを行いました。刈り取った稲は束ねて逆さまにして干しました。刈り取ったあとの田んぼも水は抜かないようにしています。

第10回 「脱穀」 11月19日

ここからは新しい「不入斗はらっぱ守り隊」の活動となります。干してあった稲から粃を脱穀しました。全て手作業で行い、9人でおよそ3時間ほどかけて行いました。この後の精米は農家の方におねがいしました。

また、10月15日に行われた「里山、自然体験フェア」にビオトープのパネル展示を行いました。

### 3. 結果

今年度の活動では、ビオトープを整備、維持する生徒のボランティア組織である「不入斗はらっぱ隊」の活動を中心に組み立てた。ほぼ、一ヶ月に1回の会合を持ち、その活動を軌道に乗せることができた。また、除草や田植えなどの作業を通して生徒の自然への理解が深まったと考えられる。

地域との連携では主に「不入斗中おやじの会」の方々と連携して作業をおこなった。また、地域を越えて、「水辺公園友の会」、「1000年の森をつくる会」、横須賀市立博物館などと連携して、アドバイスをいただいた。

さらに、ビオトープを他へ発信する活動としては、里山、自然体験フェアへのパネル展示、第3回スクールデジタルコンテストにHPを作成して出品（中学生HP部門 最優秀賞受賞）するなどの活動を行った。

この1年間の活動の成果はビオトープ維持活動の今後の礎になるものであると考えられる。

### 4. 今後の課題と発展

ビオトープはそれをつくる活動よりも、維持していく活動を軌道に乗せていくことが大切である。これが、できないとビオトープは荒れ、ただの草むらになってしまう。

不入斗中学校ではビオトープを守る生徒のボランティア組織「不入斗はらっぱ隊」と、今年度はこれをサポートする大人の組織として「不入斗中おやじの会」が主にその維持活動に関わった。

今後はこの組織を継続させて行くことと、大人がどのようにサポートして行くか、地域とどう関わっていくかということが今後の課題である。また、今年度、計画したが実現できなかったものとして、地域の小学生や地域の方に来て頂いて、生徒が中心となってビオトープを紹介するような活動がある。これは今後、実現させていきたい。

また、ビオトープそのものに関しては、そこに生息する動物や植物の調査の実施や、新たに動物などを呼び込むようなビオトープの工夫などをしていきたいと考えている。

さらに、このビオトープが他校のビオトープ作りのモデルケースとしての利用や植物を移植する時の供給源としての利用の可能性も考えられる。

ビオトープは自然環境を都市空間に再生させるものとして、広まりつつあるが、その概念はなかなか理解されない。これは、ガーデニングなどの手入れの行き届いた庭や公園というもののイメージが強くあるためであると考えられる。

路傍に咲く小さな野草も、また趣があるものである。近年、自然とふれあう活動の低下が都市部、農村部に関わらず起きていると報告されている。ビオトープが生徒達を身近な自然に触れさせるような活動の一助となり、生徒の「センスオブワンダー」を呼び起こすことができれば幸いである。

### 5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

1年間ありがとうございました。ただ、このような活動の場合できれば、複数年に渡って助成をいただくとありがたいと思います。(額は少額でよいので)、または今回いただいた助成金を繰り越して使わせていただけるようなしくみでもよいと思います。